芭蕉堂二代發句集 秋之部

洛東　公成輯
皇都　謝風校
周防　笠水校

七月

七月も少さうこうれるゆのとうれ　園更

立秋

新らしもちてさもかもかもかも秋の立　〃
秋〳〵川お桜下居上お秋〳〵ち　〃
ひもちうる秋〳〵ひうう秋〳〵ひ　〃
涙仲〳〵そ

秋くれぬ　唐ゝひ　土人形　〃

捨ていねく　秋くれて　水の柏　〃　蒼虬

籠のくれぬ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

手つゝ　笛や　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　入陸の夢　〃

立姿　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

姉　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

秋　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

あ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃　千鹿

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

今朝秋

迅　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃　案更

山の井の　花ハ咲　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃　秋　蒼虬

人ひとり　田中の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃　秋

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

行ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

髮　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

江の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　〃

[illegible]の秋つくづくともるる蟋の声

草菴

[illegible]起てふるふるかなしさの秋

[illegible]過ぎぬるけさの秋

一二すぢふるも[illegible]の声

吸ふ[illegible]過ぎるもろ[illegible]の秋

犬も尾をさらしてさの炉

[illegible]起てふれる四方の秋

串[illegible]木の[illegible]あくてけさの秋

歓山の[illegible]もろ[illegible]の秋

千崖

和秋

行とふ〳〵秋も一りるるもろ〳〵

[illegible]秋も[illegible]起てにもしき

[illegible]秋のころ[illegible]の江[illegible]

寒泉

蓼虻

住吉の秋のもて生るわ[illegible]

[illegible]

和歌もしたつて[illegible]

[illegible]秋も[illegible]

[illegible]秋も[illegible]

木の[illegible]和炉のる[illegible]

[illegible]秋[illegible]

残暑

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲妻

稲妻にうつるまさきの秋のそら　宝文

いふつつもさくら咲る人の家　枕

稲つばやあの方の[illegible]つる雲　〃

稲妻のうしあの水にふむ伏[illegible]あり　考記

いふ[illegible]人[illegible]やなる格子[illegible]　〃

稲妻にこよひの月はなかめ[illegible]稲妻の小舟　〃

世[illegible]けるくも稲妻の小舟　〃

いふ[illegible]なるすり[illegible]の[illegible]　〃

稲妻に[illegible]ゆ[illegible]蔵の橋　子雄

花火

[illegible]竹の中にこ[illegible]花火[illegible]　宗文

伏見ふく

[illegible]も[illegible]人[illegible]花火の夜　爽記

七夕

七夕はひとそうねつく[illegible]　〃

[illegible]出てまつむる垣根　〃

七夕をあ[illegible]ふ[illegible]あり　〃

強暑をさのむとてこそ[illegible]

[illegible]賀歳川堤をのぞり

七夕　秋よやてらもたけ　はたもしらも　七夕の宮の　柳

星祭

彼方世よ中　ふるてふる星　実文

ちはしあくて　石とあん　星の　〃

河ふる　ちはまる　ものの　星の　〃

星のちひ　ちふ　春もあ　ふる　〃

年ふれ　おりし　ひ　むり　の　〃

星合　うおと　たらう　夫婦　〃

業　ち　お　ふ　と　星の　あ　ん　〃

海ふ星方　ち　ち　東海　真菅原　〃

銀河

賀茂川　お　ふ　ふ　ち　天の川　〃

桂町　ハ　ち　買　ふ　あ　の　河　〃

ふ　ち　ち　お　ハ　ち　ち　銀漢　〃

ち　ち　ふ　ね　の　ち　ち　ふ　ち　天の河　子屋

盆

ち　ち　ち　け　て　盆　い　ち　て　し　嚴島　豪紀

盆月

ち　ち　ち　の　つ　け　ハ　ち　け　し　ち　の　月　〃

道　法　み　ち　ち

[illegible]

千屋

亀待

[illegible]　　寒更

魂祭

[illegible]

息[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

[illegible]

[illegible]

[illegible]　　〃

[illegible]

魂棚　　千屋

[illegible]

夢[illegible]魂棚[illegible]　　寒更

送火　　〃

送[illegible]

燈籠　　〃

[illegible]

[illegible]竹のおく　　寒机

[illegible]　　〃

[illegible]

切籠

切籠をとりて面影の屋　菓更

夕時雨をとりこ惜わる京の所　〃

あらしぬ〃ぬよりけり切籠　〃

大文字火

大文字火のあらんあらの峰　菓机

大〃やと〃ぬらんと一〃ら　〃

大〃の所より秋の風　〃

生身霊

いきみたまとらはつるら　菓更

躍

月ひとり野よる捨てある躍　菓机

志〃ら〃の中よりとりし　〃

あの〃て青くうらみ踊る　子崖

荷葉飯

うみちまされはまをうつを

孤るあの色なとおりひ出く

孤まて切ゆ切夕うれる蓮の飯　菓更

刺鯖

さ〃ぬ中張〃やうもおりて　向　菓机

刺鯖よ深〃ら伯母のひねり舟　〃

[illegible]　〃
[illegible]　〃

相撲

[illegible]　国更

露

竹の[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃

剃髪

[illegible]　〃
[illegible]　〃

[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃

露

[illegible]　宝更
[illegible]　〃
[illegible]　〃
[illegible]　〃

朝川も海に入るりの中
霧の口もいさ海まくる霧つり
魚捨てるうれ拾ひをいろうろ　寒山

秋風

秋風に高く風つるむこゑ　寒更
秋風も風のるさるまれし
早角くるまつるれ秋の風
秋風も山をこく火のまれ
松竹の常緑に秋はあきの風
秋風も長くるれ魚の骨
多羽の浦ふるる

秋風もうるさを洗ふるるね　斗墨菴主
秋風も川辺の庵に老二人
秋うもも蘆の屋の屋　械のおと
あるさうせもうるさハ稀ぬ鶏鳴石
秋風もうるる蛙の日の雷
鳴の声をもうる吹うる秋は風
秋風も解にさひは弱　勒堂
つうれ虫　声うるるるて秋の風
癖声をくるるるふるうる秋の風
鶏風もうるるるるるるるるるるる

秋風のふきぬるまに初る葉　細うれ
日をくむ籬のすゝき　秋の風
秋風もいとはやくもふるめるかな　〃
先まつ色に黒ハぶるしし秋の風　蒼風
水とはあさくしぶくて　妹の風　〃
深山とも　郭のすゝき　秋の風　〃
竹とれい竹の中ゝ　あるの風　〃
歌しられをちるまハ秋風ぞ　〃
さけ〳〵そこ　〃
家居ても　岩も　波の泡　〃
妹風もいのちとそ　乐波のひま　〃

梶のまに秋風ぞ　妹の風　〃
ひとの〳〵手　浦を吹　秋風　〃
秋風を　ふるとて　山の家　〃
落涙と人　ふるとて　秋の風　〃

秋聲

敲ゝ浦

ふれふれも　ふるみふるにも　秋の色　宝更
月の花　ふる　秋の下色　〃

秋空

書ゝ　根よ　吟ると　遠は
江とふるつ　あるもふる　秋の色　〃

生る山や靜なる風や秋の去　〃
流れ〳〵こゝ東乃海の秋のそら　〃

秋雲

晴そうて日出て惜て秋はゆく　〃
なびくの〳〵こゝろの秋の移ゆ秋雲　〃

卯山眺望

山すそや横ゝよこ雲はあるの雲　〃
一日もおく〳〵秋のあし　琴九
石山のこゝろは秋の雲や　〃
立山にうゝきはこゝあるふもと　〃

秋雨

秋雨やうゝ山茶花の絶間　東更

或人に老僧仏像を乞ふに

あるゝゝに袖ぬらや仏の前　〃

四山亭ゝ秋ひらす

秋雨や遠山ゝ雲のぬるゝ　〃

ゝさゝし蕭然ゝに発句を請

ゝゝに

ふる人ゝ秋雨やうゝ秋のゝ　〃
ゝゝ秋ゝうゝあいゝゝゝふう秋の雨　〃
午時ゝゝやゝの照中の秋の雨　〃
炉雨やゝ話ゝゝ奉ゝ人　〃

楚江の妻分ゆうられよ
あれ行くも計も結ぶく秋雨　〃
あくるを待つ行くもあきの月　秀紀
その戸おかをも思ひ出る秋の雨　〃
明の前よくはもしうて秋雨　〃

秋野

秋の野をいくとこころもなく　〃

一葉

おりて行くのひくは相のこつぬ　宗更
相ふと葉ふらも春もまうと　蓬紀
ぬと床おき雨ふ一葉ふ　〃

梶やとまりの浦を漕し　〃
梶ひとを捨て出る也　〃
行方何を白とて兵庫一葉ふ　千代

散柳

岩間を漏く上に出る　春更
ちらもれ柳ぬこの法華の細　〃

留別

散ふくる　柳　綿は　はるれも　〃

木槿

垣の木槿思へ朝もあり也　〃
行宮をたて何義を木槿　〃

夕陽はしたしくむらさきに
ちりしかの萩をおくれて花ぬ末 權 蒼紀
一里ゆくもくさけの萩はくれはくれ
くれゆくるみちもさかぬ末 〃
ゆくもくさけの戸 〃

萩

宮先も踏うつはは白の萩 宗更
花ゆくもくさけの萩の萩くさ 〃
押花ゆくもくさけの猪の臥せ山の萩 〃
はあはくく犬踏ゆくる小萩ゆく 〃
花石の花ゆくつ蘇はゆ一ゆく 〃

萩原やめをたつる月の横
野の引ちを萩はは下枝ゆく 〃
地ゆくゆく蘇 起ゆくはゆくゆく 〃
ゆくゆくゆく野の咲く芳宜の下 〃
ゆく海も一年の萩はさはゆく 〃
月ゆくはゆくゆくゆくゆく百枝萩 〃
藤原の花ゆくゆく分て今は 〃
枝ゆくゆくゆくゆくの萩 〃
ゆくゆくゆくゆくの萩の 〃
寺ゆくゆくゆくゆくの花 〃
咲ゆくゆくゆくゆく萩ハはゆくはゆく 〃

枝ごしに着ものさむき萩見かな
花おもしなびくは萩のさかりかな
おき出て雲や萩より一とこ紀
おのれあくりやちらしとる萩の宿
明ぬるやおりふし萩を風の花
泥水のうへに見出すや萩のむら
ゆらしと夕日をうけて山の萩
石垣のおもてをうけて芽萩のむら
川く舟うけて千種の垣根かな
萩さけるあしたの露の花
江の上や萩をなびけて隣のいる
千明

朝顔

あさがほや起ぬ人には一盛 寒子
志げみにはくれて見えさかりかな
朝顔や手植さけし花見道
出る日に朝顔を能みなり
朝顔やさかりの暮れハ起あく
勤る也おのれ人の友も咲ん 蒼虬
市中やまつ朝顔のふくらみら
朝顔や夫婦の枝をとふ金かり
葉やほのお露 [illegible] のみ
あさがほや花のあさかを花の露

ここらまで鶉の鳴きて花の秋　〻
咲きかはる萩もさし出て淋しの秋　〻
紅の裾の白ひきかくれけり　〻
葉に葉して下葉まづちる萩の露　〻
あさがほや野菊の月と隠れ里　〻
咲き紅葉や是ぞ世に咲く花の雁　〻

女郎花

女郎花鬼一口にのこりけり　寒更
ちるまでは[illegible]あさくせめ也静也　〻
暮色もうき世の[illegible]しのぶ　〻
雨の夜も人まちがほか女郎花　〻

夕暮や見まくもよしや女郎花　蕉北
まれ人に露をもつけてめでにけり　〻
井戸ばたの名も花の名もしられ女郎花　〻

桔梗

辻堂につれて志はめる桔梗かな　寒更

卯辰山に於ける

花の香や桔梗をつる人通り　〻
ひる中にそめて涼しき桔梗かな　蕉北

稲

風はまだ先ちりそいねぶり　実更
くれあいあきもよの桔梗の花　〻

湖のなかとうて

柱〳〵や稲を刈るよ〳〵なる波　〃

鳴〳〵川や稲を刈ていさ〳〵波　〃

大きの影森〳〵うつる柳の葉　蓼仙

はてしなるやこゝに柳れ上　〃

夕稲の多きや出く都ふらさ出ず　〃

夕稲れ乗せ水てあるこ麻の先　〃

蓮實飛

蓮の実〳〵や葉の傍を飛ぶる　園東

萩

萩の葉〳〵毎ちんまりまつ〳〵　〃

波動や雫とあつこに萩れ葉　〃

魚釣れ力さしこそ萩の葉　〃

萩の葉〳〵毎ハさるこそ見るなれ　〃

乗るこるれ舟盤陽て萩の手巳　春風

つれ之萩よ葉こ〳〵しくも葉さ也　〃

萩の声浜〳〵ふるこ遠ひ　〃

苔

新あけや苔こるれ道名笠　望東

ひとりともはあるこに照るうあ　〃

孤山こうにはあるあるなる　春風

ところやこるれ別陸のこれ蓬　〃

暮ゆくを知らでてふれぬる春の色
山伏は法螺ふきつれは世こうふ
水青く岩高くして雲見あたる所うらまし
雪兎窟にもとは日も秋の雨
いとゝ長くなる時ぞ見風雲
秋むし切なるふとゝ思ふ日は
たゝもあり春をうらこのぬるゝも
中尊寺あらしこそ老と色
聖の法ひ高き先たのまれ
ちるまして
佳人はたゝもとそうく世こうの

はる西へむかふ人は春の雨
うゝ合ふ三月日とのもくれぬ
山中ウて一ち鶯く世こうの

草花

むさし野の雪の笑人なれくる
おもしろう特ふ道のなれ花
山ゆゝ高嶺の中ゝ春のむ

小野あり武蔵あてもとゝふの
ひは国ふゝ今も陸ふて
あんゝおゝゝるあしとえぬ人
ゝ送れ

[illegible]

葛

[illegible] 秀郁

荑

[illegible] 奥郡の里[illegible]の子 冥更

[illegible] 女こう氣

[illegible]

蕎麥

[illegible] 小郡[illegible]

[illegible]人を[illegible]

[illegible]

[illegible] 秀郁

[illegible]

[illegible] 比良の山風[illegible]

[illegible] 葛[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 冥更

[illegible] 秀郁

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 冥更

[illegible]

倒れもとうり中は雖悔　〃　蕃　乾

併ちかく秋とうたちあらう　〃　蕃　乾

り蛙とうは徳ちかとうたいと　〃

絵ちかく蕃る　〃　〃

ちかは竹のちかあ四河也雖悔　〃

蕃の蕃とうちかも難しかてちかう　〃　蕃

寵馬

時はうと雖の四隅のいとうあ　寵　〃

寵とう蕃ちかる　〃　〃

いとうは地といるる毛　〃の風　〃

はちあもいとうはうりちかとう　〃

蝉

小家ちかとう富てもひとうあの山　寵　乾

ちかはかは蕃とう内ひとう新蝉　〃

蓑虫

蕃生つかはとうかて

みはもしの鬼のてあるあ九条　寵　更

蕃虫の時ちかてあるん　〃

藻鳴虫

わとう白藻とうちかとう虫の蕃鳴　〃

藻とうたちか虫系絵いとう愛也　〃

玉虫

玉章色々多紅葉色染れハりせ梅う

蟋蟀

さてこの子のとんぼ行う者の辻

秋蟬

鳴くよ子と時ハ鳴くも秋の蟬

あさ仕時あさうまの鳴くよう体

をちこちの鳴くもむなう秋の蟬

多鳴くうさと蟬るおうて秋仕蟬

ちうふくれるあ秋ら蟬の色

蜩

日くらし色この山ゑ山ゑ

秋螢

秋の蛍多ゑうよう考ふ

秋蚊

蚊おうて多ふた

ふ秋蚊ふくらはうら秋蟬

ものうて蚊の出る秋の山ゑ

鹿

鳴く山て鹿うう行ふ

出ふいとやつ秋ふ面の

山甲色赤ゑ紅て紅の嵐

ふう鳴て見ふ山嵐の

多

多

多

数十匹群を組み
足をとゝめて又吟ずるに月の影
山ゝに映じ谷ゝに響て寂寥の
うゝを聞て物わびしき入色谷の氣
吟ずるに鹿の聲聞て小男鹿妻よびかはす月の影上ゝ
角うつて吟ずるに牡鹿の聲
おのゝいゆて鳴ゝ鹿の角うつ音
鹿の角うつ音を聞て牡鹿の
鹿角を合せうつ音を聞て牡鹿
ふくとうを行ふ

春秋尊ぶべし

春ゝ秋ゝ鹿さし吹ゝ笛の氣
紅葉ひらゝ塗れ雲のをれ
角ゝ笛ゝ鹿ゝ年の行ゝ
夕山を下ゝ鹿の
江を分ゝ氣の
はのさゝて一本ゝ谷の氣
くるまゝて解て鶴の
鶴

うつくしき色をとゝのへ
千吹
春更

鴫

枯て枯野の中へそおもひ行て　〃

鴫立て世にならは吉江そそ　〃

西行上人の絵そ

鴫立て昔も今の寝らん　〃

あらし吹くる夕暮小田の鴫　素記

それの鴫白かしの世もおなし　〃

鵙

鵙鳴て風の日くらし来るらん　笑空

日和さして鵙の聲くるさふらん　〃

風は野あらし百舌鳥啼くらん　〃

なくまくも人あれ鵙のこゑ　〃

一息に日も暮るる百舌の声　〃

啼ならし月ならす鵙の聲　〃

梢に鵙さふき神社ありて

おくまくもおかしく行すかて大

あるおもくの木のこまあつくならさ　素記

梢にや空をそらし鵙のこゑる

鵙の声人はこころおり梢哉　子暁

案山子

あらしし笑すやく見えすしらん　笑更

鳴子

山道の行〳〵咲や秋の暮　〃

雨の星はかりあかるき光かな　〃

あるものと思ひしけふはあらぬなし　〃

声たてゝ引や秋の暮る　〃　　几圭

御射山祭

穂すゝきの中ゆかりて

風おもや穂の中ちる旅けふ八里　闌更

八朔

八朔やもて来た代の花かつら　〃

朔日や八束結けし里の秋　〃

村君に挨拶つかふ田面の日　〃

秋寒

秋さむし日影のうつる袖の端　〃

あさ寒し立出て見れは稲かゝる　〃

夜寒

家の移り住家におかる夜寒かな　〃

小鍋煮る火のさはりなき夜寒かな　几圭

牛の居らぬ出たり夜寒かな　〃

芋茎きさむ音をきく夜寒の住居かな　〃

朝寒

二夕日木槿にみえて朝寒し　至史

肌寒

新らくて秋をもむ枝のさき　ゝ

暴風

戸明れハ月まだあつる嵐かな　ゝ

阿山の手にのこる柳の尾花　ゝ

角田川

事もちなみやふ人は都の都鳥　ゝ

秋暮

今日も又ひとつくれ秋の暮　ゝ

小坊主は何まちくらす人の秋　ゝ

妹の墓野中の杭をかくる哉　ゝ

秋の暮行枝の案もなし　ゝ

行くうちに人は妹の暮　[illegible]

むかしを日とよりて秋の暮　ゝ

庵すけも探りてさびし秋のくれ　ゝ

山ひとつかゝれは眼のあかるの暮　ゝ

宇都の山にて

うつむいて旅人来る秋の暮　ゝ

つれ人は宇津の山のくれ　千峰

秋日

宇都の山

秋の日をおしてかくて宇津の山　亜文

秋夜

あさ霧の上や人声のみ行て松の色　ヽ
松も本とこそしらぬ影ありけり　ヽ
秋の夜の長きをまけて静なりけり　みちむ

長夜

あつき野菊やさらに乱れけり　素雯

礎

吹きぬける竹のみ寒き小松柏　ヽ
岸月や水行馬のさとめきぬる　ヽ
松風や柏幽り谷ぬきと　ヽ
浪こそ花や夜くつ露ら移　ヽ

客中

身ならくも人よ渡りきて携衣哉　ヽ
うちきたは衣も雁さ声の風　ヽ
姫くえて笑ふ笑ふきぬさ雨　ヽ
露毎や稲の中の波の深　ヽ
おくる夜ぬちかれにしく秋ぞ　李紅
小笹きぬことふくまで八山まで　ヽ

金澤にて

うれしくにりむしてるや小栗栖　ヽ
村くいさらそ家しらぬ秋の月　ヽ
さらぬほとの礎あれ石の山　ヽ

初月

和月や行て歯ぬけて山路を　子規

三日月

指南車の如く北斗の方　〃

きつつきや木の葉ちるまで啄き　〃

樹先のきらきらあわれ三日月　〃

待宵

まつよひの伏見くるまの　〃

月代や先ず雲の出る所　〃

名月

名月にうらこうさまる東海道　〃

名月や茶の湯もすむ　〃

名月や入山やまとも半ばかな　〃

月夕や座敷の隅にうこうの実　〃

名月や樹間ちらつく松のうけ　蒼虬

名月や行くも帰るも人の顔　〃

名月や人まつのとくるくるる　〃

名月やまつ月ありて星あり　〃

名月や物に立ちて久しかり　〃

名月に待てけうの水車　〃

名月や谷の家　〃

名月や海うつくしき山の出
名月は老もおもしろ笑ん須磨の秋　〃
今日月
くもの月きりかくしたる雲
きぬの月　〃　〃
良夜雨
月こしく雲もうるさし雨
うるむまし月の雁の花れ　〃
八月十五夜吉野屋に床を
きく〃　〃
月のあるちるも陸の入　素丸

良夜八俗世をくさ吉野屋に出て
竹ひくまうるさくさいるやうの月　〃
ものの形を常ましくしの月　〃
いつまでもまるく出たまへる月　千崖
月今宵
ちるもうれしかも月のうく　素更
酒形の家あるあきを出て
次まり　〃　〃
今宵をも倉江にふくふを出て
明るの舟とうへるを水青月
昼とちまうあ

[illegible]

月見

[illegible]　宝更
[illegible]　参軍

十六夜

[illegible]

十六夜も月よりくまなき空なれど
十六夜の月の山もとうつて澄るゝ　宝更
いさよひの雲をのせてうつる水　参軍

ささらひやたきもとにふるふのきぬぎぬも　〃

鰍とやよくし月をいさよふ空　〃

十六夜にさりしく咲く木芽ど　〃

月

こころつも世は走り中に要ぬの月　寒支

海くくらし団の夜もぬ郷月は隅　〃

おんなりとも白雲るに床月あかり　〃

月を添めてよふかめて明け候も　〃

月袖に蜜山もとも秋の秋　〃

月に松衣皆きたる海は庵　〃

旅行

草臥て月みも峠に旅の坂　〃

留別

便りも月に二見はきたる石　〃

誠中馬見井

只なみ跡のみや水の月　奎乳

ほつもこく男も月はゆきしれ　〃

さかりくも縁にかゝる宵月の雪　〃

ふたつくる首骨たらし月の空　〃

おしぬくひおしぬくひゆく月の空　〃

何山におとまりの月の雲　〃

人くまで帰る宿あたり山の月　〃

月しらやもさらぬ人まつ社なりけれ　〃
葉おしみをたのみを波立て月
黒葉してとさしてあ月のい　〃
光いう月社中しも雲ゐろ　星更
月ひかるる風は吹月もさん　〃
見ゆるちに月きつをうにたのる　〃
峰にけハ海ゐを見てこのつを　蒼軒

秋

月
やうせおるをうを秋の月　〃
松風を明るまる小秋社月　〃

野まるものを光を秋社月　〃
雲うけく夜ほくまるる秋の月　〃
見てをうけるをいりあをる社の月　〃
野まをれハ井る狩峰の月　〃
傘うくを宮ハをくあて秋の月　〃
義山ゆ終る生あけくあきの月　〃
水せくほうしぬる也秋社月　中岸

和紅葉

溜ゐをれくを失ひる和をを　星更
東渓亭にて
枕しを和葉ふ見る義社山　〃

花野　南坡亀を作る

おりゝ〳〵ちさき花も花野中金

花芒

ふるさと分て解くことを指さるゝ　〃

猟人は弓矢うくるは芒すゝき　〃

又況たゞゝ人を六ゝ見し　花薄　寒切

花芒　おのゝ人あはれを吹ぬ　〃

芒穂

とゝ分て地上つく〳〵や薄の穂　寒之丈

指もむる歩ゝをおろて

かりゝ〳〵やゝ〳〵薄も穂を出て　寒切

雁変

刈萱とは秋の花あるを　寒之丈

萱もまた風ふるゝ一本の　寒切

こゝ萱の色ゝ〳〵ゝとゝ　〃

露草

露草はさこゝ風吹て東の色　寒更

をは江の内行まゝ花て十番

を送ゝん

露草の色あはゝを残ゝ　〃

雞頭

稲妻ハうこ鮎やミん田のおと、
稲妻や稲のうゑとて赤蝉紀、
稲妻に秋のあハれをさそハる、
稲妻や先魚年はにしらず、
未ちしらぬ松のとうけ　考紀
茶店に乾して
稲妻や菜种志ハして一夜免、

瓢

今乾らハちる軒の瓢、　宗叟
蔓ながら瓢をまくしまゝん、

黍

もし稲色黍ハら野は風さらく、

芭蕉敗

稀も志らぬ芭蕉は破るゝ、
條前山く
病中吟
芭蕉葉ゝもうハ破れる身かな、

菱

水うくゑて菱に流るゝ、
菱は植てや濡てありさの汐　子唯

葛根堀

細白し葛の根ほし岩の上　蓋叟

蕈狩

蕈狩もうらやましかりつる身なれども

年ふるまつの木のもかな　〃

風のうへにあるもおもしろし　菌狩　〃

初蕈

そらに蕈もそらつとそこへ盆の上　宝丸

田刈

あの田刈もゆるしてゆくふ身てもあり　宝丸

見人のふるさと月ふる田毎をとのうるうぐ　〃

新菜

ふるさとふる世まとをとるる張ちゆ

おこうこう

ふるさとも休すとはるふ年　春帆

菊園

ゆかりあれやそのとをけり国ふる花　宝丸

初雁

そらをのつて旅ふる田の海　〃

初しぶる雁ふ田の海　〃

初こうこのかすこ四つさうん　〃

鷹

月ひしうし鷹ふ鷹ふ廻ふ　〃

そらふるさとふるつくるうる雪の鷹　〃

行かうの行風にはらめる一羽
あはれとしたひてきのふ天はて
てはたかはゆるえんをそなたに
夕雲中鳴くるしてかはたの
かたそうれもなをくたるての雲
ほのぼもあかるかはたに一羽て
松の枝にのぼるふ踏ふ小田の
雪をうけしつてさ多のもの磯の
磯ばやうさきはてしたし
うふるもはるもあの山
夕陽をひさりてされるもたる

ほのぼのもちりさきはるふ老し
蒿ちのほふるふ
蓮生る入るをてえは月はそう
ふ源は松をふるるく天はた
仲秋名月園の芋の初穂を祝して
秋の名月をうまはうる
姫川もたるくつらを新しり
果てしに一見ひくもあるみ
てはたるるれ哀つる
鯉 酒 ろ色 ちの
千 咲

渡鳥

世ふるゝ杖よつくとも
啄木鳥　寿乳

木つゝきの何ぞ味ある　山木原　寿乳

鰍

つゝみ石あらはれ　〃
毒うつぎ　〃
行くゝ川　〃

藁

藁の家は火ふせぐ海ぶり　〃

落雁

さゝ波は貴ゝ志ゝん　〃

新酒

ひゝ法利おゝちひさき酒ぶね　寿乳

后の月

乳房ゝ洗おもひあふぎの月　寿乳
のもち月水を来わたる　〃
ほの月清ゝ水ぶとん　〃
清ゝ水の法華し后の月　〃
月来ゝ月ゝ月　〃
ゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月　寿乳
ゝゝ杉の木ちゝ后の月　〃
ゝゝ月ゝ月ゝ月　〃

上京くやまくれ時なのちれ月
水と出くあるうつくし長の月　六岸

十三夜
十三夜ちんれしかくれ完まん　園更

露霜
露霜をもれとうは望のうく
つゆ中とれ寒ふうを特長ル　〃

露時雨
露ふるは時なれあるれ照日うれ　〃
おさして枝ふる猪毛寒しふル　〃

秋時雨

土山とやうう　秋もひとしく毛　みち仙

菊
菊のうり毛さうう八陸のうまうう　玉更
子世を陸ふ吉振もあん陸の雨　〃
陸ふう陸てあふ八陸の山路ル　〃
菊の風研てううのうう　〃
陸うとおを菊ふうあふ　〃
一尺ル菊材毛ふ陸世うル　〃
むさほうあ毛の陸毛本れ寒　〃
陸藤ふ長ふ入ふう高れさま　〃
稀月庵ふ陸ふれ陸八

つれの春ふりて菊をあらはせる
きくとこそうたれて
ながらへば風の音にぞきくまがき
まがきにうゑしをばなの露
柳陰新はいかへりてあらぬ春
時世粧ふるうるはしき
菊にとまる蝶は葉に紅にし
花散る水白ひかる岩の菊
菊あるく鞠とぞおくれぬる
山路をば松はかくれうつる菊
里原一叢又咲一叢ぞ

菊のうつりをは山嶽にうすもえて咲
夕霧にまぎれひかるは菊の花
住吉は新を春をまたんせしの業
きくはなれをもきこしめしうるれ甲
山里の菊は雲もはるかなる
垣ちかくはるかに
まがきの菊をひらくは業八幡宮
仙人の菊はあるよ垣根のよくあるを
まがきのうつりおのれ
菊作りまあるよりたるふし
あるよぬくを垣根の上や業のも

さ秋も古風てよみそへくの宿
夕月はあかりもすゝむ菊のまふ
うちやしれの岸水をかしく
やよはくれに出して
さなしくは吹く菊の白ひたそ
志ら露にもしく芒にたてつよ
菊の宿佛の花に咲くちよう
瑠璃燈炷にかゝるさひし菊の香
おきしとらつはすをて白く葉るふ
志らはるゝ似て白菊の雲かゝな

子崔

十日菊

案更

よひさくて十日の菊と菊すなり

紅葉

みなかへも落ちの下ては露ち山
もえ地くも散りゆく風わたる峰
紅葉して竹の中なる清涼寺

長岡よりきりて

長岡や落ちる紅葉をとては紅葉
山里や嵯峨宗祥みなれもとる
水鏡江やうつる八坂の岸もとち

さし出の磯

草むらやひなさし出のうれ紅葉

河の末て汗ぬ御舩こそ紅葉かな　〻
紅葉ふ焚て煙のかしら揚り哉　〻
奥山のもみぢ夕くれなゐの色こそは　〻
白浪む岫のもみぢ力揚り音　〻
忘れしくも浮し紅葉の月夜かな　〻
花ゐて通天橋上のそむ
紅葉ふる人や橋しろがきて紫の神　〻
立まみて知ふ紀谷の紅葉かな　魯九
木ふけからおりは小寺も紅葉かな　〻
よし深き木部の上乃もみぢかな　〻
笠画山人

紅葉して夕くれなゐ中の滝　〻
もみぢ散紅葉に見る沢の雪　千尾

蔦紅葉
わかれ時や岩にうつる蔦紅葉　〻
中々に光る杉本は淋しもこきた　窓叟
風はらくひらひら散り蔦もこき紅　〻

尾花散
咲きちる尾花咲や月夜かな　〻

草實
草の実の色しも来たる　〻

木實

中人ものに成て実をとるなり　山鴉　〃

壽山寺の

椿実　〃

高き木村ふく椿の色ふかくて又色

いろいろにちりまとをもるらるまく

あらそふわれも

椎　〃

椎柴　〃

椎果色黒きうちにあるなり　老軌

栗

栗のある椎を実をとるなり　山家ぶり　実文

谷ごとに峰高く塗し　栗拾ひ　〃

るのなる栗拾ひ　〃

給鹿あるにちきれやき栗と半

はこつ降ふるさてあるれば

ふり栗も吉てひろひも　給鹿山　老軌

柿

ゐるある渋色めるもん柿のそ　実文

人の家に柿を　〃

梨

[illegible]

落水

[illegible]

柚味噌

[illegible]

行秋

[illegible]

暮秋

[illegible]

[illegible]

秋籟

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

布施の海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不破の関

[illegible]

白馬城址もまた庚申の年

[illegible]

[illegible]

拾菓滝址名あるを道を修する

[illegible]

二十丁あり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小春

松が枝をたをるまさ小春の入日かな　案更

あるくうちのよわ毛に春の山　蕪村

義経をたのうしは小春の月　〃

松が枝のあらしに紀の国阪かけて

うらうらけ野に角のうれも

日も永しやうらめまさる鶴の

鶴ぬうつる所のふるさとの　子規

小六月

羽をうつす柳の式も小六月　蕪村

初時雨

初時雨降るかとぬれぬ人の顔　案更

降るかと雲に乱るる時雨

市中も奥うれしかふれ初しぐれ

蕭々の雨降の音も時雨

降るや雲に降るとも初しぐれ

古山も鳴るかと初時雨

世をそ鶴の笛ふきあげて初時雨　蕪村

うつるかと降るかうつる

降るかうつるもうつる山の初時雨

新雨に梅さくうつる初時雨　案更

うつり時雨ふるくうて降ひとう

[illegible]の清の竹とぬ朝[illegible]
稲[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

住景をこんてい人をあつまらるる
比奥そのくるまあつて
夕山もかくそなる雲の中の時雨を
ぬさみかくく
ひくく鶴の行衛おもはるる
雪比丘
砂浦しらくれなるを表先
松うゑはやうあつまりあつまるとん
斧おきるくるくるを雪のしくるこの
廻板のくるくるくるを雪の時雨
持命を故のみをうしくるば

人をくるる雲をくるる樵片を　千尾
紅文をなしこなる雪戸の　〃

風

木枯しも月はあまの地の羽くる　家更
風の中の音の時々紅葉の　〃
ちくくも西山のくく夕附日　〃
てかくしお自をくるる月嵐し　〃
身延山をくるる　〃
こくしもおりくくも陸奥堂　〃
風も枯くくと野の葉をなる　〃
木枯しも日を夕くくる猿の上　雪机

[illegible]

敷賀ふて

[illegible]

須磨ふくうねる時

[illegible]

[illegible]

冬籠

[illegible]史記[illegible]

[illegible]冬籠　宝文

冬ごもり　禁火[illegible]

炭二俵　[illegible]

冬籠　[illegible]

[illegible]東[illegible]松風[illegible]冬ごもり　[illegible]

[illegible]

冬月

冬の月　[illegible]

[illegible]　宝文

戸口うら　芦[illegible]

[illegible]人[illegible]

寒

勝月　夢陸亭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

車蓋の草戸を扣て

[illegible]

冨別

[illegible]

閑更

〃

〃

〃

ひとつ家ふたつ家の森にて雲の雲
鶯つたふ梢高く高田畑の麦ばた
あり山入山家ゆくゆく雲のおと
雲ふかく雲のうちなる雲ふかく
見渡せば雲の表の表なる
松杉の雲と雲とかさなりて

温泉

春さめし温泉ゆたかに
ものすごく
夏七月
夏ゆくゆくしもの家
大雲ゆくゆく雲のうちなる

里の雲も雲ふかく
りれば雲の表の表
雲ゆく雲ゆく雲の雲
白子の子あり

月雲乃内の雲乃表の表
雲掛ふ入江の小舟
突ゆくゆく雲の一滴子

初雪

初雪や山路ゆくゆく雲
ゆくゆく雲の雲
初雪に雲ゆく雲

雪

[illegible]は都に　[illegible]

[illegible]

[illegible]

あけぬのもとろ〳〵る雲の塔
年雨もりたる下門屋
月はくもし松の海のうの松ぶ

文鶏真つて
雲もとも塔の〳〵かもあるを妙寺
其旅を詩をく
誘ひもて行くん人をもる井山

留別

鶏〳〵て雲ひ遠〳〵雲の山
安四の鍋沸あて
酒ふ〳〵もふとてとてて〳〵る

酒のまに誘りれ出る雲ん寺
後ひもに引ふ〳〵ひる雪は寺

素然一月忌に
迴る〳〵も雲は稼り滅る也

四十余年
社まる〳〵知己ふる五年庵を
ふる〳〵ぬる〳〵おる海の縁月乃朱
市〳〵て

清水ふる氣よ志〳〵る志四の雲
雲も形も小舞も井乃自ら影
志つもる〳〵る積ぬりの雲の船

[illegible]の下は羽[illegible]つ[illegible]まつ小舟原
[illegible]いらこ[illegible]ゆめ[illegible]歌の山
一人[illegible]歌のり[illegible]の雲
枝[illegible]比良[illegible]雪の外
[illegible]の松[illegible]の山
雪[illegible]白[illegible]の中[illegible]
日[illegible]向[illegible]
[illegible]しり[illegible]月[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]日[illegible]出[illegible]山[illegible]

蒼紀

[illegible]の山
[illegible]出[illegible]の流[illegible]
芦[illegible]船[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]一枝[illegible]
[illegible]世[illegible]
[illegible]
雪[illegible]
[illegible]明[illegible]
[illegible]

降たるよめ雪と明石の浦の
雪の船をもかもの浦の夏の里の
よりて流れ行くくらまの里の
大雪くもふくりうと鶴の群の
松明もてるくもこそらの山

時鳥夢の見
かくばかりのとけし庵の松

越後妙法寺にて

花折らんくもの日暮れ
氣比濱眺望

大雪は降くもくもの海の

木つくき社一本さしのふる木の下の
ちらで花も先りもの滝の
月さくくて二夕るもるの雪佛
にて見て神の社の竹の社の
見るもうもるの松ちらの海の
ゆもまるやしに明るもの山
まくるる道あるもの岸
入月の下よりもの山
もつばくはめ鶴の降の
所のもくくく

鹿ひとつ声の嵐梢うつり
落てうしてうえ行と月をこの山
雪まゝ引いなむうつもこの中　家文
梢もしなうつもうしなみをのさま
うつやうつも月あうう月を又みさ

霰

あゝ霰やむちうつをうけあつを
いうに行とうつ月をあれ
雲のうつもうおなうしは狩の上
をうつうあつもうおは網の魚　みうれ
野のまはをうまるあまうあまうし

雲

鈴人も雲義をうけうれ降　家文

氷

文うもうをうをうは槻の高
杉沈む竹のうつまるうれ
杉うう実のうめを橋の所は
いうう雁一首は杉をうる　枯橋
氷路うう道の路をうるは
氷うう孤は沈のれの氷うれ
清川を家修のたう氷うも
凍ううきう入江の月さう

砥澤

切くくるへるとらの雄山ど　〃

ふんうせとくらの鈴をわるる千

里のり先をもるく

氷みもおくれをせ四一鈴の色　〃

衣ら陸こいくくて

うくくんるを水ぬるもう底の不二　〃

鈴鈴の淑

不二ふんを水うくらもきをの色　〃

星をくくし水くくもわるをつくし

生ひまをて槌ひるる芝ふる　蓋七

相の実おこるれうう厚水　〃

一草亭

水柱ふ記来くくひ入りるれ　寅文

火桶

をを延てう桶鈴うう相火桶

ふるも机の下ら桐ど桶　〃

孝経ふむ孫の岩つく火桶ど　〃

ぞくく初を巻も水桶くく火桶ふる

相火桶絵くくふく張りうう　寅七

一日はりて出るる牛桶ど　〃

楫火

大江山の鬼ども　橋姫　家文

橋の上に　〃

碎きもや　橋の上に　〃

炭

おとろかぬ　〃　関東

炭売の妻　〃

炭竈や　〃

きりぎす　〃

行くもまた　〃

炭乃香や　〃

そこの香に　〃

炭焼の　〃　〃

炭焼の　〃　〃

炭竈の　〃　〃

うわの空　〃

はかなき法の　〃

炭の香に　〃

きみうまれ　〃

いとけなき　〃

頭巾

松風に　山法師　写文

紙衣

月さえ　〃　〃

上京する仏と人多く紙を乞れ　蒼虬
岩山あしのうらはこうこう　〃
ちりぬるの紅みの紙衣　〃

紙衾

ちりぬるを人も紙衾　葉文
月うすく紅梅ふすま　〃
唐土の文や紙ぬきぬ　〃
みつ山の梅と由うれあるとこ　蒼虬
紙衾寒きの中にさこうれ　千蛇

蒲團

波はムラ〻毎ゝ蒲團　葉堂

帰花

冬花一輪を出蕾う　〃
名ゝ〻ゝ木ハ枯あれ海ゝ　〃
蕾ゝ〻ゝハ〻ゝ花う　蒼虬
ゝ絶立岩に冬木のさ〻ゝ　葉文

散紅葉

もゝ紅葉をゝ枝〻ゝ鋪〻　〃
もゝ〻ゝ〻ゝ石　〃
切ゝ〻ゝ〻ゝの下　紅葉　〃
蕾ゝ〻ゝ〻ゝ彩ある日和ゝ　蒼虬

落葉

時雨を降り落ちる音更
山ふかくはひとり寝る夜もまれ
雨四方をとりこめて落葉かな
鶯の来て食ふものあるなれば
大川を越て来る夜千崖
おもをんの笑ふ夜の鶯
木葉
ちらちら降りもせぬ木の葉かな
ちつとしと梯の時雨てゐこの
白雲をあしたは自然の木の
ひとくくこの木葉の天童
客中春を
春出ると
客中春を
人ふかく
まるの
客中春を
春出ると
客中春を
春出ると
客中春を
春出ると

[illegible]

[illegible]

一株 [illegible]の冬木立 [illegible]

枯柳

[illegible]

山茶華

山茶花と梅と [illegible] 梅 [illegible]

[illegible]

山茶花と [illegible] 椿

冬牡丹

君が代に [illegible] 冬牡丹

寒菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水僊

[illegible] 水仙花 [illegible]

[illegible]　　蓼虫

水仙花

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

水仙花

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

水仙花

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

水仙花

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

冬枯

冬枯や[illegible]　　寒更

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

冬枯や[illegible]　　寒更

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

冬枯や[illegible]　　蓼虫

冬さゝき

[illegible]　　寒更

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

枯野

枯[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

[illegible]　　〃

[illegible]　　蓼虫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冠の第より出る桔梗ひし　素丸

石蕗花

ちらしたる月おもしろき蕗花　素牝

大根引

奥山ゆこうはいるや大根哉

氣畑の早下もやさし根ひき

ちらしてはた大根ぬく山の島

大根引お城の見やるてをるを

志賀みて

大根引志賀を人氣の拾ひく

千鳥

ちらしては千鳥

竹刈しかたをおもてふる

母をえはうさ拾ひ吟る島

寄丸

海を寄る朝の風る千鳥

吟のあり吟くるるのあるに

ちらしつて川をうつ

鬱くみてちらしてをるを

鬱くみてちらしてをるを

鬱くみてちらしてをるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水鳥

水をもはハあくるゆめ　家文

ゆゆゆあゆあゆ波ゆゆ　小田の秋　〃

水をもゆをもゆをもゆ　〃

ゆをゆ鳥と回〻ゆ　九たゆ　舞帆

水をゆ羽ゆ波けゆ　二月　〃

越中の國布施の海の船とゆて

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ　〃

海苔

ゆゆ行ゆ出ゆゆゆ　あゆむ　家文

月波もゆゆゆ　海苔　〃

仲中もゆゆ浮ゆ　夕明り　舞帆

鴨

夕をゆゆゆは色ゆ行ゆゆ　〃

ゆゆ行ゆゆゆ　小田ゆ明　〃

新川ゆゆゆゆ　赤一鴨ゆ朋　〃

あゆゆゆゆゆゆ　西の小野ゆ　〃

ゆゆゆゆ波をゆけ　小野ゆ　〃

ゆゆゆゆゆゆ　〃

月見をゆけゆゆ　小野ゆ　〃

ゆゆ明ゆゆゆ　小野ゆ　舞帆

行野ゆ日ゆゆ　愛ゆ野のゆ　〃

鴛鴦

[illegible]　家定

[illegible]　、

[illegible]　、

鷹

[illegible]　是九

木兎

[illegible]　家定

[illegible]

[illegible]　、

暖鳥

[illegible]　、

冬鶯

[illegible]　、

鳴

[illegible]　、

[illegible]　、

鷦鷯

竹伐[illegible]　、

[illegible]　、

[illegible]　、

野やまの[illegible]
谷かはの[illegible]
夏つくしなる根くりの　鵠鷸　みち切
結婚ふりにしかたをみてをさん

網代

松原や[illegible]　[illegible]
網代守とて[illegible]　冬更
そ[illegible]
[illegible]　網代
[illegible]　童切
網代守ゆふ[illegible]

[illegible]
夜長引
[illegible]　冬更
[illegible]

河豚

いそのこゝろぬるくあてぬくと汁
世の中や[illegible]
海[illegible]
[illegible]
[illegible]　釜切

鱈

[illegible] 巣史

[illegible] 魚の枷 〃

乾鮭

[illegible] 〃

[illegible] 〃

[illegible] 〃

納豆

[illegible] 蒼乱

戎構

[illegible] 雑俳の者市 寅更

一町[illegible] 戎構 〃

[illegible] 人角一[illegible] 梅 〃

[illegible] 戎構 考机

十夜

[illegible] 十[illegible] 〃

芭蕉忌

[illegible] 十二日 寅更

[illegible] 〃

[illegible] 〃

[illegible] 〃

菊忌

[illegible] 庵の寄式[illegible] 参机

翁高くもちのくり栗のむく皮
おりひしぎ

朱山けふの花由こん和尚の
りつけの水ハらは也志らいの植
春ふらう樹を待く伝ふ参武うん
掃うせく茶きの塚と云うる衣
氣参武参不ハ十夢の泥の雪
山仙也まこきそうれを和尚

洞法乃翁忌

生涯の雲に来きもちの世人翁の
さ年の翁忌ハ本毎ちこ参しを

ハ庵ゑ筆をとうて
十ちう樹も来おく雲武加
義仲ちふて
出と時ふ塚をあくふ体と云うきう
あうう和法修のくん本年ふ
を向ふを藤のをふる新ち
朱ふ新ち来ふちと参伝雲武
木鬼も来をまてさ世翁の

孟冬雑

矢田の樹ち辺ふ
冬の郎也行ふ所へを子ち社を　雲文

[illegible]

行[illegible]の[illegible]を[illegible]し日[illegible]山[illegible]辺[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]代の[illegible]ある[illegible]山も[illegible]

林も[illegible]て白[illegible]の[illegible]

[illegible]英亭[illegible]

[illegible]

剃[illegible]

[illegible]

[illegible]の冬

[illegible]は[illegible]

氷ヶ[illegible]波[illegible]ト居[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]尾花　千崖

霜月

[illegible]月や[illegible]の山[illegible]て[illegible]　軍雪

冬至

出[illegible]　[illegible]

山[illegible]は　[illegible]　[illegible]

鉢敲

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行年の雲に有もうつるなるの梅　素竹

冬椿

咲くやもくれぬ行あらうそつまる　〃

蓮食

いたくやもきも弁とりて茶食　風更

師趨

山行や師走に星の雪まじり　〃

相の宴に柳ゆるるの春　〃

俳ゆるに跡つくるもすがら　〃

歳暮

節季やの扇に紅も雪の年　素更

寄世のふるさと川　〃

雑きれやに果て花の池の磬　素竹

ふ春やも格もさ沢鬼も年　素更

田の中に雑つくるて年のまち　蓼竹

雑くるく一息ばくやのふ雑　〃

さめるぬ阪の山とふ居るて

ひと年に宿ちまるる阪の山　〃

丙寅の冬ふふ吉ひと年智茶

に罪をさめるとて

ちちやに行ふて年とる小田の磬　〃

年に茶阿さ年ち牧　素更

竹も花ゆるもとや大三十日　園更

松風は掛もふるもいとゝ山　〃

大ゝも風情の出生りをゝ　蒼軒

妻もるれふほゝまる園之家　子羅

おりて来て炉ゝくる除夜の柳ゝ　素軒

雜

車蓋ゝ三聖社像を拝て寧所の句を

ゝ原ゝ故翁の跡を思ひて

月花の道すゝ和んゝ足達　宝更

或人の扇ゝ

ゝ

ゝ

杖突坂

[illegible]

上諏訪

[illegible]

善光寺

[illegible]

中嶽

[illegible]

金洞山

[illegible]

日光

[illegible]

江島

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬之部畢

東山芭蕉堂故蘭更翁爲其中興而
蒼虬翁千崖翁相繼而起世主此堂
三翁才力皆足以風靡海内宜乎學
俳歌者終歸於正風從是芭蕉堂之
名愈著于天下矣然蘭更蒼虬二翁
之句出諸選及其集固多膾炙人口

但千崖翁多年漫游主此堂不如二翁之久且不及編其集而逝則傳世之句亦少矣於此六世之堂主公成翁爲千崖翁傷其不幸且恐其句終致湮没因集三翁句合刻而欲以傳之不朽也意不亦厚耶蓋公成翁予師叔也予令二子雪螢可成從學故此集錄之成徵跋於予〻所以不辭而書耳

己未仲冬　芳巖　可樵

雪螢書

安政己未冬十一月新鐫

南無庵藏版

門人訂正

池永大典書

彫工　松月堂魚助

三都

同　通二丁目　山城屋佐兵衛

同　通二丁目　小林新兵衛

同　浅草茅町二丁目　須原屋伊八

同　両國横山町三丁目　和泉屋金右衛門

書物

同　芝神明前　岡田屋嘉七

大坂心齋橋筋北久太郎町　河内屋喜兵衛

問屋

同　心齋橋筋安堂寺町　秋田屋太右衛門

京都寺町通松原下ル　勝村治右衛門版